

健やかな歯が、体の健康を支える。

— 歯科医療の向上と、歯の健康促進を目指して —

歯の健康がますます重要視される中、10月22日(土)・23日(日)の二日間、東京国際フォーラムで「口腔保健フォーラム2011」と「国際歯科シンポジウム」が開催された。国内外の歯科関係者と大勢の家族が参加し、よりよい口腔保健を考える好機となった。

一般参加型無料イベント

口腔保健フォーラム2011 「歯と口からはじまる健康ファミリー」

多くの家族が参加した「歯と口からはじまる健康ファミリー」イベント。「ワクワクさんとゴロリくんのスペシャルステージ」や「歯みがきレッスン」などを通じて、歯磨きの大切さや歯・口の健康について楽しく学んだ。



家族みんなが
楽しく学んだ
歯の健康!

元気な子どもたちで大いに盛り上がった本イベント。まずは、人気のテレビ番組、NHK Eテレ「つくってあそび」からワクワクさんが登場し、参加家族と一緒に色紙を使って花を創作。新聞紙を使って手軽に作れる剣玉も披露した。次いでゴロリくんがステージに上がると子どもたちは大喜び。2人は「ごっこあそび」で「歯医者さん」に变身し、ユニークな掛け合いで会場を笑わせた。

続いては、NHK Eテレ「すくすく子育て」でおなじみの、つのだりょうこさんが歯科医師の倉治ななえ先生に、子どもの歯磨きや口腔の健康について相談する『歯みがきレッスン』の時間。倉治

先生は、最初の乳歯が生えたらすぐに歯磨きを始めることや、抱きかかえるような姿勢と笑顔を意識する仕上げ磨きなどをレクチャー。幼いころから歯磨きを習慣付ける大切さを説明した。

最後は、松原美香さん&AKO☆Pのミニコンサートと全員参加の「風船送りゲーム大会」で家族もヒートアップ。歌って踊って、楽しみながら歯の健康を学べる時間となった。また、会場には歯科医師に直接質問できる「歯科相談コーナー」や自然な白い歯を目指すための講座「ホワイトニングの知識」などのブースも設けられ、口腔の健康を考える親子で賑わっていた。



歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士向けセッション

ジーシー創業90周年・GC友の会55周年 第3回 国際歯科シンポジウム

メインテーマ：これからの歯科医療の姿を考える

今年で創業90周年を迎える株式会社ジーシーは、歯科材料および関連機械器具の製造・販売を行う企業のひとつ。「GC友の会」や「国際歯科シンポジウム」などをはじめ、歯科関係者が互いの知識と絆を深め合える場も積極的に創出している。

今回のシンポジウムは、3月11日に起きた東日本大震災の影響を受けて自粛も検討されたが、「この会を歯科界の活力に。そして、日本の元気につなげたい」という強い思いから予定通りの開催に至った。参加登録費は、被災地復興支援のために全額寄付される。

国内外から70名の専門家が登壇し、29セッションが実施された本シンポジウム。世界の最新情報が発表され、歯科界発展のために活発な議論が行われた。



株式会社ジーシー 代表取締役社長 中尾 眞 氏
社団法人日本歯科衛生士会 副会長 武井 典子 氏
社団法人日本歯科技工士会 会長 古橋 博美 氏



社団法人日本歯科医師会 会長 大久保 満男 氏
日本歯科医学会 会長 江藤 一洋 氏
大韓歯科医師協会 会長 金 世榮 氏

GC友の会 55周年 アニバーサリーシンポジウム 新しい病態の予測と対応

(コーディネーター) 田上 順次 氏(東京医科歯科大学 教授)
Reinhard Hickel 氏(ドイツ ミュンヘン大学 教授)
Hou Ben-xiang 氏(中国 首都医科大学 教授)

国際的に高齢化が進行し、歯科界においても高齢社会特有の課題が明らかになってきている。そういった背景の中、人工的な歯根を埋め込むインプラントのあり方をはじめ、今後望まれる治療方法や新素材の開発、歯科医療制度のあり方などが議論された。まずは、ドイツのミュンヘン大学歯学部部長などを歴任したHickel先生が「歯の硬組織疾患治療の現在と未来」というテーマで、コンポジットレジン充填処置が主流である欧州歯科界の現状を紹介。充実する保険制度などに触れながらも、将来的には低侵襲的治療と予防法に



関する知識を深めていくべきとの考え方を示した。また、中国の首都医科大学で教鞭を執るHou先生は「中国における、保存修復学の現状と発展の傾向」を主題に、中国歯科界の進歩と課題を発表。人材育成の場の拡大や技術のレベルアップを評価する反面、地域の経済格差が歯科医療にもたらす弊害や国民の口腔保健に対する意識の低さなどを取り上げた。最後はパネルディスカッションが実施され、コーディネーターの田上先生からより踏み込んだ質問が投げかけられた。多角的な視点から歯科界の現在と未来にせまった本プログラム。先進的な意見が数多く提示され、実り多き場となった。



(コーディネーター) 菅野 博康 氏(宮城県)
千葉 英史 氏(千葉県) ● 須貝 昭弘 氏(神奈川県)
永田 省蔵 氏(熊本県) ● 大村 祐進 氏(山口県)

主催：GC友の会

後援：FDI World Dental Federation /

社団法人日本歯科医師会 / 日本歯科医学会 /

社団法人日本歯科技工士会 / 社団法人日本歯科衛生士会 /

IADR (International Association for Dental Research)



世界各国から専門医が集結。
歯科医療の知識と絆を深める場に



(コーディネーター) 宮本 泰和 氏(京都府)
村上 伸也 氏(大阪大学 教授)
和泉 雄一 氏(東京医科歯科大学 教授)
水上 哲也 氏(福岡県)

MIを視点においた歯科臨床を探る

～歯の保存から再生・メンテナンス～

切除療法から再生療法へと移行する歯周治療において、歯の保存に力を注ぐMI[®]の観点が注目されている。「患者中心の医療」のもとに、開業医からは歯周再生療法の最前線における診断や治療について、大学人からは歯周再生療法の近未来の研究について述べられ、議論が行われた。
* Minimum Intervention / ミニマム・インターベンション=最小の侵襲

アジアの歯科事情

～アジアにおける審美歯科治療の現況～

顔の印象を大きく左右する歯の審美。近年ではますますその重要性が高まり、色、形、機能など、一人ひとりに合った治療が求められている。このセッションでは、審美歯科治療を通じて日中韓の審美性に対する考え方が議論され、異なる価値観を共有する意義深いものとなった。



(コーディネーター) 植松 厚夫 氏(東京都)
北原 信也 氏(東京都)
Woo Yi-hyung 氏
(韓国 慶熙大学校 歯科大学 附属歯科病院 病院長)
Fen-ping Liao 氏(台湾 高雄市)



(コーディネーター)
村上 恵子 氏(東京都) / 大住 祐子 氏(大阪府)
東方 法子 氏(東京都) / 上村 佳子 氏(大阪府)
川崎 律子 氏(新潟県) / 品田 和美 氏(東京都)
新田 浩 氏(東京医科歯科大学 准教授)
橋本 貞充 氏(東京歯科大学 准教授)
日山 邦枝 氏(昭和大学歯科病院 歯科衛生士長)

患者さんとの関わりを大切にする 歯科衛生士の役割

多くの歯科衛生士が聴講した本セッションでは、抑えておくべき歯周病治療の最新情報や口腔内全体の変化と異常の見つけ方が講演された。高齢化社会における歯科衛生士の役割と可能性にも焦点が当てられ、今後さらに活躍の場が広がる歯科衛生士にとって有意義な時間となった。

失われた欠損機能の回復のための 歯科臨床技術の進化

素材の新開発や機器の進化によって、より高次元な治療が可能になりつつある現状をふまえ、患者満足度の高い審美補綴や欠損補綴に重点をおいた講演が行われた。また、具体例をもとに、安全で安心なインプラント治療のための条件や術後に想定すべき問題と対策も議論された。



(コーディネーター) 前田 芳信 氏(大阪大学 教授)
Ignace Naert 氏(ベルギー カソリック大学 教授)
(コーディネーター) 土屋 賢司 氏(東京都)
南 昌宏 氏(大阪府) / 林 美穂 氏(福岡県)
Pascal Magne 氏(アメリカ カリフォルニア大学 准教授)
Jean-Pierre Brun 氏(フランス グルノーブル)



(コーディネーター) 菅野 博康 氏(宮城県)
千葉 英史 氏(千葉県) ● 須貝 昭弘 氏(神奈川県)
永田 省蔵 氏(熊本県) ● 大村 祐進 氏(山口県)

長期臨床観察から見えること

～考える歯科臨床・必要な技術～

患者と向き合うことを原点とする臨床医学では、患者と医師との意思疎通が最も重要になる。本講演では、患者との信頼関係をもとに長期経過を観察する4名の開業医が登壇。臨床の有用性や「個への対応」を重視した治療法など、経年的対応から得られた貴重な意見が提示された。